

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル) 申請様式

① 学校名	星槎道都大学		
② 大学等の設置者	学校法人北海道星槎学園	③ 設置形態	私立大学
④ 所在地	北海道北広島市中の沢149番地		
⑤ 申請するプログラム名称	数理・データサイエンス・AI教育		
⑥ プログラムの開設年度	令和3	年度	⑦ 応用基礎レベルの申請の有無
			無
⑧ 教員数	(常勤)	67	人
		(非常勤)	43
			人
⑨ プログラムの授業を教えている教員数		3	人
⑩ 全学部・学科の入学定員	260		人
⑪ 全学部・学科の学生数(学年別)		総数	963
			人
1年次	291	人	2年次
			273
			人
3年次	203	人	4年次
			196
			人
5年次		人	6年次
			人
⑫ プログラムの運営責任者			
(責任者名)	飯浜 浩幸	(役職名)	学長
⑬ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)	学務委員会		
(責任者名)	伊藤 裕康	(役職名)	学務委員長
⑭ プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)	データサイエンス教育担当者会議		
(責任者名)	由水 伸	(役職名)	図書館長・学長補佐(IT・情報化担当)
⑮ 申請する認定プログラム	認定教育プログラムと認定教育プログラム+(プラス)		

連絡先

所属部署名	図書館センター	担当者名	近澤 潤
E-mail	toshio@seisa.dohito.ac.jp	電話番号	011-372-3111

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「情報基礎演習Ⅱ」(2回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「情報基礎演習Ⅱ」(2回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「情報基礎演習Ⅱ」(2回目) ・人間の知的活動とAIの関係性「情報基礎演習Ⅱ」(2回目)
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「情報基礎演習Ⅱ」(6・7・8回目) ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など)「情報基礎演習Ⅱ」(6・7・8回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータ「情報基礎演習Ⅱ」(3回目) ・データ作成(ビッグデータとアノテーション)「情報基礎演習Ⅱ」(3回目)
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり「情報基礎演習Ⅱ」(4回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービス「情報基礎演習Ⅱ」(4回目)

(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	<ul style="list-style-type: none"> ・データ解析「情報基礎演習Ⅱ」(5回目) ・データ可視化「情報基礎演習Ⅱ」(5回目) ・AIとビッグデータ「情報基礎演習Ⅱ」(5回目) ・認識技術、自動化技術「情報基礎演習Ⅱ」(5回目)
	1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル「情報基礎演習Ⅱ」(6回目) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「情報基礎演習Ⅱ」(6回目)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「情報基礎演習Ⅱ」(14回目) ・データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「情報基礎演習Ⅱ」(14回目) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス「情報基礎演習Ⅱ」(14回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性「情報基礎演習Ⅱ」(15回目) ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「情報基礎演習Ⅱ」(15回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報基礎演習Ⅱ」(15回目)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類(量的変数、質的変数)「情報基礎演習Ⅱ」(10回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「情報基礎演習Ⅱ」(9・10回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「情報基礎演習Ⅱ」(10回目) ・相関と因果(相関係数)「情報基礎演習Ⅱ」(10回目) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、層別抽出)「情報基礎演習Ⅱ」(10回目) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「情報基礎演習Ⅱ」(10回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)「情報基礎演習Ⅱ」(9・11回目) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「情報基礎演習Ⅱ」(11回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの集計(和、平均)「情報基礎演習Ⅱ」(12・13回目) ・データの並び替え、ランキング「情報基礎演習Ⅱ」(12・13回目)

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・データ・AI活用領域の広がりを理解し、それらを活用する価値を説明できる。
- ・データ・AIを活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解し、習得する。
- ・コンピュータを使って、データを適切に加工・分析・考察することができ、その結果をプレゼンテーションツール等を用いて、表現することができる。

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.seisadohto.ac.jp/introduction/data-science/>

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和3

年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	入学定員	収容定員	令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		履修者数合計	履修率
			履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
経営学部	120	480	137	129	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	137	29%
社会福祉学部	60	240	47	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	20%
美術学部	80	320	86	81	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	86	27%
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
合計	260	1040	270	256	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	270	26%

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

星槎道都大学教授会規程

② 体制の目的

本プログラムは、星槎道都大学の共通教育科目の科目区分「情報・数理基礎教育科目～情報リテラシー」において必修科目として開講していることから、全学教授会に設置されている学務委員会において、本プログラム教育内容の改善や教育課程の編成、プログラムの自己点検・評価のほか、数理・データサイエンス・AI教育の全学的な普及、関連科目の整備を行う組織であるデータサイエンス教育担当者会議(学務委員会小委員会)からの報告・提案を受ける審議機関としている。

③ 具体的な構成員

学長 教授 飯浜 浩幸
 副学長・社会福祉学部長 教授 小早川 俊哉
 経営学部長 教授 信濃 吉彦
 経営学部学科長 教授 河野 善文
 経営学部経営学科 教授 青山 浩之
 経営学部経営学科 教授 遠藤 均
 社会福祉学部学科長 教授 藤根 収
 社会福祉学部社会福祉学科 教授 渡部 斎
 社会福祉学部社会福祉学科 専任講師 西野 克俊
 美術学部長 教授 安藤 淳一
 美術学部デザイン学科長 教授 林 春生
 美術学部デザイン学科 准教授 梅田 力
 美術学部建築学科長 教授 伊藤 裕康

④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和3年度実績	26%	令和4年度予定	50%	令和5年度予定	75%
令和6年度予定	100%	令和7年度予定	100%	収容定員(名)	1,040

具体的な計画

本学の「数理・データサイエンス・AI教育」プログラムは、本学の共通教育科目の科目区分「情報・数理基礎教育科目～情報リテラシー」に配置されている科目『情報基礎演習Ⅱ』が対象であり、全学必修科目として設定していることから、全学生が履修することとし履修者数については入学者数となる。

なお、必修科目であることから、履修率の向上に向けた計画を設定していないが、同プログラム対象科目が必修科目であることから、オリエンテーションにおいて履修登録説明や履修モデルの設定、履修登録マニュアルの配信、履修アドバイザーからの指導など、学修に向けたサポートが整備されている。

⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

④に記載のとおり、本プログラムの対象科目は全学科必修科目として設定していることから、基本的には100%の履修率となっている。なお、当該年次に履修中止した場合は、この限りではないが翌年再履修することが可能となっている。

また、本学ではクォーター制での時間割であるが、本科目はSemester制で実施しており、さらに、経営学科においてはクラス分割、その他の学科はオンライン授業併用型で実施している。

今後も本プログラムにおける同科目は、全学科必修科目とし継続してプログラムを実施する予定となっている。

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

④に記載のとおり、本プログラムの対象科目は全学科必修科目として設定していることから、基本的には100%の履修率となっている。

また、同プログラムに関連する共通教育科目の科目区分「情報・数理基礎教育科目～情報リテラシー」のシラバスは、HPで公開し、履修及び到達目標、授業内容、成績評価方法・基準などの詳細についても示している。また、ポータルサイトにおいて、各授業科目の出欠情報、成績等の履修状況は、学生がオンラインで確認することが可能となっている。

なお、学生が数理データサイエンスを学ぶために、共通教育科目科目区分「情報・数理基礎教育科目」において関連科目を複数設定しており、プログラムへの理解につなげている。

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

④に記載のとおり、本プログラムの対象科目は全学科必修科目として設定していることから、全学生が履修可能であり基本的には100%の履修率となっている。
授業の体制として、複数教員による授業を実施しており、修得できるためのサポート体制を講じている。
本学では、全学生に対して、Microsoft Office365アカウントを付与しており、新入生オリエンテーションにおいて、双方向オンライン授業などの多様な授業形態に対応するため、Microsoft Office365のインストール、授業実施に活用するMicrosoft Teams 使用における説明を行っている。また、オンライン上にてヘルプデスクを設置、Microsoft Teams チャット により直接学生からの質問にも対応している。さらに、大学からのお知らせ等の連絡体制(受信)として、全学生がBIND.note (バインドノート=アプリ)をインストールし活用している。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本プログラムの対象科目については、オンライン授業への切り替えを想定し Microsoft Teams を通じて実施することが可能であり、学生は授業時間及び授業時間外に不明点等の質問を Microsoft Teams チャットを使って回答する体制が整備されている。
また、本プログラムにおける授業担当教員は、それぞれオフィスアワーを設定(全教員が設定)し、学習内容や質問等についての相談実施体制が整備されている。さらに、本科目授業担当者の研究室はコンピュータ室に隣接した配置であることと、兼務となっている図書情報センターでも対応が可能となっている。

自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムが提示する「モデルカリキュラム(リテラシーレベル)」に準拠した授業を展開した「情報基礎演習Ⅱ」について、履修者数・修了者数及び学修成績分布等により、授業実施状況、出席状況、成績評価及び基準等について分析を行い、全体の理解度を検証する。なお、本科目は必修科目であることから履修状況については問題ないが、修得状況(単位取得状況)については学務委員会にて状況を報告し、学生の履修指導につなげている。</p>
学修成果	<p>数理・データサイエンス・AIリテラシー教育(科目名:情報基礎演習Ⅱ)においては、全学的に行われている授業改善アンケートより学生の意見・要望を取り入れ、改善を図っている。また、授業担当者による独自アンケートを授業開講期間中に3回実施し、細やかな学生ニーズに対応し、習熟度や学習意欲の向上に活用している。</p>

<p>学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度</p>	<p>本プログラム対象科目である「情報基礎演習Ⅱ」の授業最終回には、FD推進委員会による「授業改善アンケート」が行われ、次年度に向けた授業計画の見直し・改善を全学的に実施しており、授業に関する設問事項全体の評価ポイントは、4. 12(5点満点)、理解度確認の設問においては、4. 24(5点満点)となり高評価の結果が得られている。</p>
<p>学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>本プログラム対象科目である「情報基礎演習Ⅱ」は、卒業要件の必修科目であることから後輩等他の学生への推奨度は確認してはいないが、学生が回答した授業改善アンケートに対する「教員コメント(学生へのフィードバック)」の入力した結果を公表している。</p>
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>本プログラム対象科目である「情報基礎演習Ⅱ」は、全学必修科目として実施しており、実質100%に近い履修率となっている。今後も、全学必修科目として継続してプログラムを実施する見込みである。</p>

<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>当該プログラムにおける本授業科目は、令和3年度より内容を改訂し開講されたため、当該授業を修得し単位を修得して卒業した学生をまだ輩出していないが、卒業後、事務局（キャリア支援センター）と協力しながら、卒業後の追跡調査を実施する等、修了者のキャリアステップや活躍状況の把握に努めたい。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本学が設置され、包括連携協定を締結している北広島市に協力を仰ぎ、令和3年度1年次開講「情報基礎演習Ⅱ」で扱った内容を基に、データ収集（調査設計）・加工（データ分析）・表現の一連の内容を令和4年度2年次開講「データサイエンス論」において、データ・AIの基礎知識を用いた課題解決型学習（PBL）を実施し、総合的に実践する計画としている（令和4年5月現在、北広島市等と調整中）。</p> <p>また、星槎道都大学内部質保証に関するPDCAサイクルに則り、本教育プログラムの自己点検・評価を行うデータサイエンス教育担当者会議、本教育プログラムの進化・改善を図る学務委員会、内部質保証の責任を担う教学マネジメント会議を経て、教育改革有識者委員会等への報告・検証、意見交換を行う予定である。</p>

<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>本教育プログラムでは、専門分野におけるデータサイエンス・AIの事例を積極的に取り扱うことで、自身の専門分野とのつながりを認識させ、数理・データサイエンス・AIを学ぶ意義の理解を促している。 また、知識の共有・定着化を図るため、グループワーク・ディスカッションを取り入れ、学生の学び合いやコミュニケーションを促進し、学ぶ楽しさや学習意欲の向上を実現している。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>本教育プログラムでは、「文系大学生」に対してリテラシーレベルの数理・データサイエンス・AIを習得させ、専門分野にて活用できる基礎的素養の育成を目的としている。そのため、文系大学生にとって分かりやすい説明・解説・教材を重視しており、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムにて配布されている他大学の教材等を参考に、改善を図っている。 また、科目担当教員による学習支援（Microsoft Teams チャットを活用した授業時間外の質問受付、オフィスアワーの設定、個別指導・補講等）の他、学内関連部署や各学科教員で構成される履修アドバイザー・学科サポーターなどにより、本学ならではの細やかな学修サポートを行い、学生の習熟度向上を図っている。</p>

②自己点検・評価体制における意見等を公表しているアドレス

<https://www.seisadohto.ac.jp/introduction/data-science/>

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)プラス 申請書

① 授業内容

本学は、経営学部経営学科・社会福祉学部社会福祉学科・美術学部デザイン学科・美術学部建築学科の3学部4学科で構成する小規模文系大学であり、その特色を活かし、少人数教育、学生本位の学習、密着型の教育支援に力を入れて取り組んでいるところである。そこで、本学の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」においては、それらの強みを最大限に活かしながら、特色ある各学科(経営・社会福祉・デザイン・建築)を中心とした幅広い分野において、数理・データサイエンス・AIを用いて課題解決を図ることができる人材を育成することを目的としている。そのために、初年次に該当科目を配置し、数理・データサイエンス・AIの基礎から応用、そして専門科目に至るまで、4年間でステップアップできるカリキュラム体系としている。

【分かりやすさの重視】

モデルカリキュラムに準拠した科目「情報基礎演習Ⅱ」(全学必修)では、担当教員自作の教材(スライド資料・動画教材)と、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムにおいて配信されている e-Learning 教材を組み合わせ、授業を展開した。また、授業中は録画を行い、使用した教材と併せて、全てグループウェア(Microsoft Teams)にて公開・配信し、いつでも視聴・閲覧可能な状態とすることで、事後学習(復習)に用いることを可能とした。また、学科別にクラス編成して少人数教育を実施した。

Microsoft Teams のチャット機能を用いて、授業時間外においても担当教員に質問・相談ができるよう学習支援を行った。

【学習意欲が高まる内容】

講義(教員からの一方向的な知識伝達)だけではなく、事例研究・発表及びデータ分析の授業回においては、アクティブラーニング(グループワーク)を取り入れることで学生間で知識の共有を行い、習熟度や学習意欲の向上を図った。データサイエンス・AIの事例に触れる授業回では、各学科(経営・社会福祉・デザイン・建築)に関する事例を紹介し、学生の興味・関心分野との関連づけを行うなど、各学科の専門分野・特色に則した学科個別の説明・教材提供を行った。

【学生の習熟度や専門性を踏まえた内容や授業選択】

「情報基礎演習Ⅱ」を中心に、数理・データサイエンス・AI教育プログラム関連科目「情報基礎演習Ⅰ」(全学必修)、「数学入門」・「統計学入門」・「基礎統計演習」(選択)を1・2年次にて開講し、学生の興味・関心に併せて履修可能なカリキュラム体系とした。また、「情報基礎演習Ⅱ」では、補講を複数回実施して習熟度の向上を図った。

2年次開講科目「データサイエンス論」(選択)では、数理・データサイエンス・AIの基礎知識をもって地域の課題解決を実践する実践学習(PBL)を展開を予定しており、数理・データサイエンス・AIの応用・実践力を養う。

【教材・技術等の公開】

「情報基礎演習Ⅱ」では、グループウェア(Microsoft Teams)において、授業の録画動画及び使用した教材を全て公開・配信し、いつでも視聴・閲覧可能な状態とした。

【タイムリーな授業改善】

「情報基礎演習Ⅱ」では、学習前(第1回授業)・中間(第8回授業)・学習後(第15回授業)の計3回にわたり科目独自の授業アンケートを実施し、学生の学習ニーズや困りごとに即時対応できるよう整備した。結果、タイムリーかつ各クラスに特化した教育支援を行うことができ、同アンケートの結果においても、5項目中4項目にて学習前よりも向上する結果となった。次年度も同アンケートの内容を踏まえ、学習支援を行うべく、教材の見直し等を行っている。

② 学生への学習支援

【学習支援システムの構築・学習成果の可視化等の導入】

授業の録画動画・使用した教材・小テスト・課題提出及び採点・フィードバックを、オンライン上（Microsoft Teams）にて一元的に管理した。課題の採点・フィードバックでは、点数・努力が認められた点、もう少し努力が必要な点を明示して個別にコメントした。課題の提出が遅れている学生には、Microsoft Teams チャット機能などを活用して学生の履修状況を把握し、個別に学習支援を行った。

【個別指導・補講・特別講義の実施】

小テストや課題提出によって測定された習熟度に応じて、個別指導・補講を実施して、習熟度の向上を図った。また、定期試験前には特別講義を開講し、データ分析等の練習問題を多数用意して、自身の習熟度や苦手意識のある領域の問題を選択して、取り組むことができるよう設計した。

【授業時間外の質問対応】

授業時間外の学習においては、Microsoft Teams チャット機能を用いて担当教員に質問等ができるよう学習環境を整備した。また、データ分析等の実習を伴う内容の質問のうち、チャットの文字だけで解決できなかった場合には、学生とオンラインで繋ぎ、学生の画面を共有させ、一緒に画面を見ながら指導を行い、学生の十分な理解を得られるよう図った。

なお、特に質問の多い事項については、担当教員独自に動画教材を作成し、Microsoft Teams で配信するなど、質問事項の共有を図り、更なる習熟度向上を目指している。

【複数の教員による対応】

「情報基礎演習Ⅱ」では、各クラス担当教員を2名配置し、授業時間内・外における個別指導の機会の創出を図り、学生の学修意欲・習熟度の向上を図った。

【少人数クラスでの開講】

「情報基礎演習Ⅱ」は、1年次全学必修であるため、270名の学生が履修するが、経営学科は3クラス、その他学科は各1クラスに分け、計6クラス（1クラス約50名）の少人数で開講したことにより、個別指導の機会の増加、より正確な習熟度の把握、学生とのコミュニケーション機会の創出により、学習意欲の向上や学習支援の充実化を図っている。

【オフィスソフト（表計算・分析ソフト）の無償貸与】

データ分析や事例研究等で使用するMicrosoft Word・Excel・PowerPointは、Microsoft Office365アカウントを本学の学生全員に対し無償提供しており、学生が所有するノートパソコンやスマートフォン、タブレット端末にインストールすることが可能である。「情報基礎演習Ⅱ」の授業においても、可能な限り、学生自身のノートパソコンを持参・使用させている。

【SAによる指導】

モデルカリキュラムに準拠する数理・データサイエンス・AI教育は、令和3年度より「情報基礎演習Ⅱ」（1年次配当）にて実施しているため、同科目を履修・単位修得した学生が4年次になった際には、SAとして数名採用し、更なる個別指導等の学習支援を充実させることができるよう整える計画である（本学の規程により、SAの採用は4年次学生に限定されるため）。

③ その他の取組(地域連携、産業界との連携、海外の大学等との連携等)

【地域課題解決型プロジェクト演習による応用・実践力の向上】

令和4年度後期開講予定である「データサイエンス論」(全学選択・2年次配当・2単位)では、地域包括連携を締結している北広島市の協力を得て、データ・AIの基礎知識を用いた課題解決型学習(PBL)を実施する計画である(令和4年5月現在、北広島市等と調整中)。

1年次で行った「情報基礎演習Ⅱ」で扱った内容のうち、データの収集(調査設計)・加工(データ分析)・表現の一連の内容を総合的に実践する。PBLの具体的な内容としては、フィールドワーク・グループディスカッション・リサーチなどを経て収集した地域の実際のデータを扱い、定量的なデータ分析やデータベースの構築実習、AIを取り入れたWebサイト制作・公開等を行うことを計画している。

以上のとおり、本学の文系総合大学3学部4学科のそれぞれの特色・専門知識や技能を踏まえた協働により、実務に近い内容でデータサイエンス・AIに関する知識・技能の応用による更なる深化を図り、高年次での各専門教育やキャリア支援科目へのステップアップを目指すものである。

【卒業生による講話・指導】

「情報基礎演習Ⅱ」において、情報関係や経営・社会福祉・デザイン・建築の各業界で働く卒業生を招き、データサイエンス・AIに関する知識・技能が実業務でどのように利活用できているかを、学生に講話する機会を設けることを計画している。なお、本教育プログラムを修得し卒業する学生は令和6年度に卒業となるため、令和7年より実施することを計画している。

【本教育に対する外部評価】

データサイエンス・AIを利活用した地域課題解決型学習を行う「データサイエンス論」では、授業期間終了後、連携する北広島市や関係者にアンケートを依頼し、次年度に向けて継続的に課題・テーマ・学習内容の見直しによる授業改善を図る計画である。

また、星槎道都大学内部質保証に関するPDCAサイクルに則り、本教育プログラムの自己点検・評価を行うデータサイエンス教育担当者会議、本教育プログラムの進化・改善を図る学務委員会、内部質保証の責任を担う教学マネジメント会議を経て、教育改革有識者委員会等への報告・検証を行う。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (M- (科目ナンバリング: SOF041019/SOF062044))					
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)・近澤 潤(経営学科・専任講師)		研究室所在	1号館2階(由水)・1号館2階(近澤)		
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして実社会に必要な知識を交えて講義を行う。			

概要

履修目標
今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活や実社会の場で活用できる基礎的素養を身につける。ドキュメンテーション及びプレゼンテーションの基礎知識を身につけ、自分が意図した通りにデータを加工し、適切なかたちで表現する技能を習得する。

授業の位置づけ
経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「2(1)」に対応する。

到達目標
データ・AI活用領域の広がりや理解し、それらを活用する価値を説明できる。また、その際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解し習得する。コンピュータを使って、データを適切に加工・分析・考察することができ、その結果をプレゼンテーションツール等を用いて、表現することができる。

授業全体の内容と概要
数理・データサイエンス・AIの活用について、講義・演習課題、各種教材を通して、知識だけではなく、実際にデータを加工し、表現できる技術を体系的に学修できる授業内容とする。習熟度を測定するために確認テストを複数回実施する。演習課題は個人形式行う他に、知識・技術の応用・定着を図るため、グループワーク(グループディスカッション)形式の演習を取り入れる。なお、グループ編成は、基礎知識や使用ソフトの操作技術の習熟度を考慮した上で、担当教員より指定する。

授業の方法
各回の授業は、担当教員による講義と、Excel・PowerPointを使った演習を組み合わせで行う。演習は、個人形式またはグループワーク形式で実施し、成果物の提出を求める。本科目開講期間中は、講義で使用した教材をオンライン上に保存・提供するので、復習等に活用してほしい。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模擬授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																	
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																	
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
課題データは、自分で考えまとめたものを提出することとし、第三者が作成した著作物等を転用しないこと。自分で所有するノートPCを持ち込んで受講しても構わないが、必要な設定は予め済ませておくこと。

資格指定科目
教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上とする。30分以上の遅刻は欠席と見なす。5評価(秀)は、原則として全出席者に限る。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	50%	0%	50%	0%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
50%	0%	50%	0%	0%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>数理・データサイエンス・AIの理解</td> <td>データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて自分の考えと併せて説明できた。</td> <td>データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。</td> <td>データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。</td> <td>データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。</td> <td>データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できなかった。</td> </tr> <tr> <td>データ・AI利活用におけるモラル・倫理・リスクの理解</td> <td>データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、自分ごととして考え、事例を基に詳しく説明できた。</td> <td>データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を基に詳しく説明できた。</td> <td>データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を見つけて説明できた。</td> <td>データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できた。</td> <td>データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>コンピュータを使ったデータ加工・分析・表現</td> <td>Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現し、自らの考えを交えて説明できた。</td> <td>Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。</td> <td>Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。</td> <td>Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を表現できた。</td> <td>Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができず、結果を正しく表現できなかった。</td> </tr> <tr> <td>コンピュータを使ったスライド作成・表現</td> <td>図や画像を使い、レイアウトやテキストなどの細かい設定に気を配り、より聞き手にとってわかりやすいスライドを作成することができた。</td> <td>図や画像を使い、聞き手にとってわかりやすいスライドを作成することができた。</td> <td>図や画像を使い、スライドを作成することができた。</td> <td>スライドを作成することができた。</td> <td>スライドを作成することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーションの基礎知識</td> <td>プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践した結果、聞き手に対し効果的かつ自分なりに工夫を凝らしたプレゼンすることができた。</td> <td>プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践した結果、聞き手に対し効果的にプレゼンすることができた。</td> <td>プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践できた。</td> <td>プレゼンテーションの基礎知識を習得できた。</td> <td>プレゼンテーションの基礎知識を習得できなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	数理・データサイエンス・AIの理解	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて自分の考えと併せて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できなかった。	データ・AI利活用におけるモラル・倫理・リスクの理解	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、自分ごととして考え、事例を基に詳しく説明できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を基に詳しく説明できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を見つけて説明できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できなかった。	コンピュータを使ったデータ加工・分析・表現	Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現し、自らの考えを交えて説明できた。	Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができず、結果を正しく表現できなかった。	コンピュータを使ったスライド作成・表現	図や画像を使い、レイアウトやテキストなどの細かい設定に気を配り、より聞き手にとってわかりやすいスライドを作成することができた。	図や画像を使い、聞き手にとってわかりやすいスライドを作成することができた。	図や画像を使い、スライドを作成することができた。	スライドを作成することができた。	スライドを作成することができなかった。	プレゼンテーションの基礎知識	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践した結果、聞き手に対し効果的かつ自分なりに工夫を凝らしたプレゼンすることができた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践した結果、聞き手に対し効果的にプレゼンすることができた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践できた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得できた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得できなかった。
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
数理・データサイエンス・AIの理解	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて自分の考えと併せて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できなかった。																																				
データ・AI利活用におけるモラル・倫理・リスクの理解	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、自分ごととして考え、事例を基に詳しく説明できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を基に詳しく説明できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を見つけて説明できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できなかった。																																				
コンピュータを使ったデータ加工・分析・表現	Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現し、自らの考えを交えて説明できた。	Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができず、結果を正しく表現できなかった。																																				
コンピュータを使ったスライド作成・表現	図や画像を使い、レイアウトやテキストなどの細かい設定に気を配り、より聞き手にとってわかりやすいスライドを作成することができた。	図や画像を使い、聞き手にとってわかりやすいスライドを作成することができた。	図や画像を使い、スライドを作成することができた。	スライドを作成することができた。	スライドを作成することができなかった。																																				
プレゼンテーションの基礎知識	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践した結果、聞き手に対し効果的かつ自分なりに工夫を凝らしたプレゼンすることができた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践した結果、聞き手に対し効果的にプレゼンすることができた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践できた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得できた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得できなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『教養としてのデータサイエンス』</td> <td>内田誠一/川崎能典/孝忠大輔/佐久間淳/椎名洋/中川裕志</td> <td>講談社サイエンスイフィク</td> <td>2021</td> <td>978-4-06-523809-7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『データサイエンスの基礎』</td> <td>瀧田悦生</td> <td>講談社サイエンスイフィク</td> <td>2019</td> <td>978-4-06-517000-7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『教養としてのデータサイエンス』	内田誠一/川崎能典/孝忠大輔/佐久間淳/椎名洋/中川裕志	講談社サイエンスイフィク	2021	978-4-06-523809-7		2	『データサイエンスの基礎』	瀧田悦生	講談社サイエンスイフィク	2019	978-4-06-517000-7		3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『教養としてのデータサイエンス』	内田誠一/川崎能典/孝忠大輔/佐久間淳/椎名洋/中川裕志	講談社サイエンスイフィク	2021	978-4-06-523809-7																																					
2	『データサイエンスの基礎』	瀧田悦生	講談社サイエンスイフィク	2019	978-4-06-517000-7																																					
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (M- (科目ナンバリング: SOF041019/SOF062044))				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)・近澤 潤(経営学科・専任講師)		研究室所在	1号館2階(由水)・1号館2階(近澤)	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして実社会に必要な知識を交えて講義を行う。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	【オリエンテーション・プレゼンの基礎】シラバス説明、プレゼンの基礎、PowerPoint基本操作	シラバスの確認(45分)	プレゼンの基礎、基本操作の復習(45分)
2	【データ・AI利活用(導入)】データ・AIを学ぶ意義、社会で起きている変化、社会で活用されているデータ	データサイエンスを調べる(45分)	確認テストの復習(45分)
3	【データ・AI利活用(導入)】データ活用事例について調べ、スライドを作成する。	データ活用事例を調べる(45分)	他のデータ活用事例を調べてまとめる(45分)
4	【データ・AI利活用(導入)】身近にあるAI、データ分析とAIの活用領域	AIを調べる(45分)	確認テストを復習する(45分)
5	【データ・AI利活用(導入)】データ・AI利活用のための技術、データの活用とは	AIの技術を調べる(45分)	確認テストを復習する(45分)
6	【データ・AI利活用(導入)】データ・AI利活用の現場・最新動向	AIの動向を調べる(45分)	確認テストを復習する(45分)
7	【データ・AI利活用(導入)】データ・AIの事例について調べ、スライドを作成する。グループワーク	PowerPointの基本操作を復習する(45分)	データ・AIの事例を調べる(45分)
8	【データ・AI利活用(導入)】データ・AIの事例について調べ、スライドを作成・発表する。グループワーク	発表の準備をする(45分)	発表内容を復習する(45分)
9	【Excelの基礎】Excelの基本操作とデータ加工について	Excelの基本操作を調べる(45分)	Excelの基本操作を復習する(45分)
10	【データリテラシー(基礎)】平均値、ばらつき、相関と因果、母集団と抽出 Excelを使用した演習	Excelの基本操作を復習する(45分)	学習したExcel関数を復習する(45分)
11	【データリテラシー(基礎)】グラフ、データの可視化演習 Excelを使用した演習	Excelの基本操作を復習する(45分)	グラフ作成方法を復習する(45分)
12	【データリテラシー(基礎)】分析演習(手法を予め定めた分析) Excelを使用した演習	Excelの基本操作を復習する(45分)	分析方法を復習する(45分)
13	【データリテラシー(基礎)】分析演習(自由分析) Excelを使用した演習、グループワーク	分析方法を復習する(45分)	分析方法を復習する(45分)
14	【データ・AI利活用の留意事項(心得)】データ・AI利活用の利点・欠点を知る。	データ・AIが引き起こすリスクを調べる(45分)	確認テストを復習する(45分)
15	【データ・AI利活用の留意事項(心得)】データ・AIが引き起こす課題について調べ、発表する。グループワーク	データ・AIが引き起こす課題を調べる(45分)	発表内容を復習する(45分)
16	定期試験(60分)・解説(30分)	これまでの確認テストを復習する(45分)	解説内容をまとめる(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (S- (科目ナンバリング: S0F041019/S0F061043))				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)・近澤 潤(経営学科・専任講師)		研究室所在	1号館2階(由水)・1号館2階(近澤)	
単位数	1 (単位認定責任者: 近澤 潤)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間企業での実務経験を活かし、実社会に必要なPC操作技術について、実際の事例を交えて解説・教授する。		

概要

履修目標
今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活や実社会の場で活用できる基礎的素養を身につける。ドキュメンテーション及びプレゼンテーションの基礎知識を身につけ、自分が意図した通りにデータを加工し、適切なかたちで表現する技能を習得する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(3)」、「2(1)」に対応する。

到達目標
データ・AI活用領域の広がりや理解し、それらを活用する価値を説明できる。また、その際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解し習得する。コンピュータを使って、データを適切に加工・分析・考察することができ、その結果をプレゼンテーションツール等を用いて、表現することができる。

授業全体の内容と概要
数理・データサイエンス・AIの活用について、講義・演習課題、各種教材を通して、知識だけではなく、実際にデータを加工し、表現できる技術を体系的に学修できる授業内容とする。習熟度を測定するために確認テストを複数回実施する。演習課題は個人形式行う他に、知識・技術の応用・定着を図るため、グループワーク(グループディスカッション)形式の演習を取り入れる。なお、グループ編成は、基礎知識や使用ソフトの操作技術の習熟度を考慮した上で、担当教員より指定する。

授業の方法
各回の授業は、担当教員による講義と、Excel・PowerPointを使った演習を組み合わせで行う。演習は、個人形式またはグループワーク形式で実施し、成果物の提出を求める。本科目開講期間中は、講義で使用した教材をオンライン上に保存・提供するので、復習等に活用してほしい。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模擬授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																	
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																	
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
課題データは、自分で考えまとめたものを提出することとし、第三者が作成した著作物等を転用しないこと。自分で所有するノートPCを持ち込んで受講しても構わないが、必要な設定は予め済ませておくこと。

資格指定科目
教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上とする。30分以上の遅刻は欠席と見なす。5評価(秀)は、原則として全出席者に限る。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	50%	0%	50%	0%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
50%	0%	50%	0%	0%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>数理・データサイエンス・AIの理解</td> <td>データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて自分の考えと併せて説明できた。</td> <td>データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。</td> <td>データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。</td> <td>データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。</td> <td>データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を説明できなかった。</td> </tr> <tr> <td>データ・AI利活用におけるモラル・倫理・リスクの理解</td> <td>データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、自分ごととして考え、事例を基に詳しく説明できた。</td> <td>データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を基に詳しく説明できた。</td> <td>データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を見つけて理解できた。</td> <td>データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できた。</td> <td>データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>コンピュータを使ったデータ加工・分析・表現</td> <td>Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現し、自らの考えを交えて説明できた。</td> <td>Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。</td> <td>Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。</td> <td>Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を表現できた。</td> <td>Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができず、結果を正しく表現できなかった。</td> </tr> <tr> <td>コンピュータを使ったスライド作成・表現</td> <td>図や画像を使い、レイアウトやテキストなどの細かい設定に気を配り、より聞き手にとってわかりやすいスライドを作成することができた。</td> <td>図や画像を使い、聞き手にとってわかりやすいスライドを作成することができた。</td> <td>図や画像を使い、スライドを作成することができた。</td> <td>スライドを作成することができた。</td> <td>スライドを作成することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーションの基礎知識</td> <td>プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践した結果、聞き手に対し効果的かつ自分なりに工夫を凝らしたプレゼンすることができた。</td> <td>プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践した結果、聞き手に対し効果的にプレゼンすることができた。</td> <td>プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践できた。</td> <td>プレゼンテーションの基礎知識を習得できた。</td> <td>プレゼンテーションの基礎知識を習得できなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	数理・データサイエンス・AIの理解	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて自分の考えと併せて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を説明できなかった。	データ・AI利活用におけるモラル・倫理・リスクの理解	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、自分ごととして考え、事例を基に詳しく説明できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を基に詳しく説明できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を見つけて理解できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できなかった。	コンピュータを使ったデータ加工・分析・表現	Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現し、自らの考えを交えて説明できた。	Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができず、結果を正しく表現できなかった。	コンピュータを使ったスライド作成・表現	図や画像を使い、レイアウトやテキストなどの細かい設定に気を配り、より聞き手にとってわかりやすいスライドを作成することができた。	図や画像を使い、聞き手にとってわかりやすいスライドを作成することができた。	図や画像を使い、スライドを作成することができた。	スライドを作成することができた。	スライドを作成することができなかった。	プレゼンテーションの基礎知識	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践した結果、聞き手に対し効果的かつ自分なりに工夫を凝らしたプレゼンすることができた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践した結果、聞き手に対し効果的にプレゼンすることができた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践できた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得できた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得できなかった。
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
数理・データサイエンス・AIの理解	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて自分の考えと併せて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を説明できなかった。																																				
データ・AI利活用におけるモラル・倫理・リスクの理解	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、自分ごととして考え、事例を基に詳しく説明できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を基に詳しく説明できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を見つけて理解できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できなかった。																																				
コンピュータを使ったデータ加工・分析・表現	Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現し、自らの考えを交えて説明できた。	Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができず、結果を正しく表現できなかった。																																				
コンピュータを使ったスライド作成・表現	図や画像を使い、レイアウトやテキストなどの細かい設定に気を配り、より聞き手にとってわかりやすいスライドを作成することができた。	図や画像を使い、聞き手にとってわかりやすいスライドを作成することができた。	図や画像を使い、スライドを作成することができた。	スライドを作成することができた。	スライドを作成することができなかった。																																				
プレゼンテーションの基礎知識	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践した結果、聞き手に対し効果的かつ自分なりに工夫を凝らしたプレゼンすることができた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践した結果、聞き手に対し効果的にプレゼンすることができた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践できた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得できた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得できなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『教養としてのデータサイエンス』</td> <td>内田誠一/川崎能典/孝忠大輔/佐久間淳/椎名洋/中川裕志</td> <td>講談社サイエンスイフィク</td> <td>2021</td> <td>978-4-06-523809-7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『データサイエンスの基礎』</td> <td>瀧田悦生</td> <td>講談社サイエンスイフィク</td> <td>2019</td> <td>978-4-06-517000-7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『教養としてのデータサイエンス』	内田誠一/川崎能典/孝忠大輔/佐久間淳/椎名洋/中川裕志	講談社サイエンスイフィク	2021	978-4-06-523809-7		2	『データサイエンスの基礎』	瀧田悦生	講談社サイエンスイフィク	2019	978-4-06-517000-7		3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『教養としてのデータサイエンス』	内田誠一/川崎能典/孝忠大輔/佐久間淳/椎名洋/中川裕志	講談社サイエンスイフィク	2021	978-4-06-523809-7																																					
2	『データサイエンスの基礎』	瀧田悦生	講談社サイエンスイフィク	2019	978-4-06-517000-7																																					
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (S- (科目ナンバリング: SOF041019/SOF061043))				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)・近澤 潤(経営学科・専任講師)		研究室所在	1号館2階(由水)・1号館2階(近澤)	
単位数	1 (単位認定責任者: 近澤 潤)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 民間企業での実務経験を活かし、実社会に必要なPC操作技術について、実際の事例を交えて解説・教授する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	【オリエンテーション・プレゼンの基礎】シラバス説明、プレゼンの基礎、PowerPoint基本操作	シラバスの確認(45分)	プレゼンの基礎、基本操作の復習(45分)
2	【データ・AI利活用(導入)】データ・AIを学ぶ意義、社会で起きている変化、社会で活用されているデータ	データサイエンスを調べる(45分)	確認テストの復習(45分)
3	【データ・AI利活用(導入)】データ活用事例について調べ、スライドを作成する。	データ活用事例を調べる(45分)	他のデータ活用事例を調べてまとめる(45分)
4	【データ・AI利活用(導入)】身近にあるAI、データ分析とAIの活用領域	AIを調べる(45分)	確認テストを復習する(45分)
5	【データ・AI利活用(導入)】データ・AI利活用のための技術、データの活用とは	AIの技術を調べる(45分)	確認テストを復習する(45分)
6	【データ・AI利活用(導入)】データ・AI利活用の現場・最新動向	AIの動向を調べる(45分)	確認テストを復習する(45分)
7	【データ・AI利活用(導入)】データ・AIの事例について調べ、スライドを作成する。グループワーク	PowerPointの基本操作を復習する(45分)	データ・AIの事例を調べる(45分)
8	【データ・AI利活用(導入)】データ・AIの事例について調べ、スライドを作成・発表する。グループワーク	発表の準備をする(45分)	発表内容を復習する(45分)
9	【Excelの基礎】Excelの基本操作とデータ加工について	Excelの基本操作を調べる(45分)	Excelの基本操作を復習する(45分)
10	【データリテラシー(基礎)】平均値、ばらつき、相関と因果、母集団と抽出 Excelを使用した演習	Excelの基本操作を復習する(45分)	学習したExcel関数を復習する(45分)
11	【データリテラシー(基礎)】グラフ、データの可視化演習 Excelを使用した演習	Excelの基本操作を復習する(45分)	グラフ作成方法を復習する(45分)
12	【データリテラシー(基礎)】分析演習(手法を予め定めた分析) Excelを使用した演習	Excelの基本操作を復習する(45分)	分析方法を復習する(45分)
13	【データリテラシー(基礎)】分析演習(自由分析) Excelを使用した演習、グループワーク	分析方法を復習する(45分)	分析方法を復習する(45分)
14	【データ・AI利活用の留意事項(心得)】データ・AI利活用の利点・欠点を知る。	データ・AIが引き起こすリスクを調べる(45分)	確認テストを復習する(45分)
15	【データ・AI利活用の留意事項(心得)】データ・AIが引き起こす課題について調べ、発表する。グループワーク	データ・AIが引き起こす課題を調べる(45分)	発表内容を復習する(45分)
16	定期試験(60分)・解説(30分)	これまでの確認テストを復習する(45分)	解説内容をまとめる(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (D- (科目ナンバリング: SOF041019/SOF061043))				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)・近澤 潤(経営学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階(由水)・1号館2階(近澤)		
単位数	1 (単位認定責任者: 近澤 潤)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間企業での実務経験を活かし、実社会で必要なPC操作技術について、実際の事例を交えて解説・教授する。			

概要

履修目標
今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活や実社会の場で活用できる基礎的素養を身につける。ドキュメンテーション及びプレゼンテーションの基礎知識を身につけ、自分が意図した通りにデータを加工し、適切なかたちで表現する技能を習得する。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(1)」、「2(1)」に対応する。

到達目標
データ・AI活用領域の広がりや理解し、それらを活用する価値を説明できる。また、その際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解し習得する。コンピュータを使って、データを適切に加工・分析・考察することができ、その結果をプレゼンテーションツール等を用いて、表現することができる。

授業全体の内容と概要
数理・データサイエンス・AIの活用について、講義・演習課題、各種教材を通して、知識だけではなく、実際にデータを加工し、表現できる技術を体系的に学修できる授業内容とする。習熟度を測定するために確認テストを複数回実施する。演習課題は個人形式行う他に、知識・技術の応用・定着を図るため、グループワーク(グループディスカッション)形式の演習を取り入れる。なお、グループ編成は、基礎知識や使用ソフトの操作技術の習熟度を考慮した上で、担当教員より指定する。

授業の方法
各回の授業は、担当教員による講義と、Excel・PowerPointを使った演習を組み合わせで行う。演習は、個人形式またはグループワーク形式で実施し、成果物の提出を求める。本科目開講期間中は、講義で使用した教材をオンライン上に保存・提供するので、復習等に活用してほしい。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模擬授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																	
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																	
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
課題データは、自分で考えまとめたものを提出することとし、第三者が作成した著作物等を転用しないこと。自分で所有するノートPCを持ち込んで受講しても構わないが、必要な設定は予め済ませておくこと。

資格指定科目
教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上とする。30分以上の遅刻は欠席と見なす。5評価(秀)は、原則として全出席者に限る。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	50%	0%	50%	0%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
50%	0%	50%	0%	0%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>数理・データサイエンス・AIの理解</td> <td>データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて自分の考えと併せて説明できた。</td> <td>データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。</td> <td>データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。</td> <td>データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を説明できた。</td> <td>データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を説明できなかった。</td> </tr> <tr> <td>データ・AI利活用におけるモラル・倫理・リスクの理解</td> <td>データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、自分ごととして考え、事例を基に詳しく説明できた。</td> <td>データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を基に詳しく説明できた。</td> <td>データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を見つけて理解できた。</td> <td>データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できた。</td> <td>データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>コンピュータを使ったデータ加工・分析・表現</td> <td>Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現し、自らの考えを交えて説明できた。</td> <td>Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。</td> <td>Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。</td> <td>Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を表現できた。</td> <td>Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができず、結果を正しく表現できなかった。</td> </tr> <tr> <td>コンピュータを使ったスライド作成・表現</td> <td>図や画像を使い、レイアウトやテキストなどの細かい設定に気を配り、より聞き手にとってわかりやすいスライドを作成することができた。</td> <td>図や画像を使い、聞き手にとってわかりやすいスライドを作成することができた。</td> <td>図や画像を使い、スライドを作成することができた。</td> <td>スライドを作成することができた。</td> <td>スライドを作成することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーションの基礎知識</td> <td>プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践した結果、聞き手に対し効果的かつ自分なりに工夫を凝らしたプレゼンすることができた。</td> <td>プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践した結果、聞き手に対し効果的にプレゼンすることができた。</td> <td>プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践できた。</td> <td>プレゼンテーションの基礎知識を習得できた。</td> <td>プレゼンテーションの基礎知識を習得できなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	数理・データサイエンス・AIの理解	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて自分の考えと併せて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を説明できなかった。	データ・AI利活用におけるモラル・倫理・リスクの理解	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、自分ごととして考え、事例を基に詳しく説明できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を基に詳しく説明できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を見つけて理解できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できなかった。	コンピュータを使ったデータ加工・分析・表現	Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現し、自らの考えを交えて説明できた。	Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができず、結果を正しく表現できなかった。	コンピュータを使ったスライド作成・表現	図や画像を使い、レイアウトやテキストなどの細かい設定に気を配り、より聞き手にとってわかりやすいスライドを作成することができた。	図や画像を使い、聞き手にとってわかりやすいスライドを作成することができた。	図や画像を使い、スライドを作成することができた。	スライドを作成することができた。	スライドを作成することができなかった。	プレゼンテーションの基礎知識	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践した結果、聞き手に対し効果的かつ自分なりに工夫を凝らしたプレゼンすることができた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践した結果、聞き手に対し効果的にプレゼンすることができた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践できた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得できた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得できなかった。
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
数理・データサイエンス・AIの理解	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて自分の考えと併せて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を説明できなかった。																																				
データ・AI利活用におけるモラル・倫理・リスクの理解	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、自分ごととして考え、事例を基に詳しく説明できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を基に詳しく説明できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を見つけて理解できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できなかった。																																				
コンピュータを使ったデータ加工・分析・表現	Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現し、自らの考えを交えて説明できた。	Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができず、結果を正しく表現できなかった。																																				
コンピュータを使ったスライド作成・表現	図や画像を使い、レイアウトやテキストなどの細かい設定に気を配り、より聞き手にとってわかりやすいスライドを作成することができた。	図や画像を使い、聞き手にとってわかりやすいスライドを作成することができた。	図や画像を使い、スライドを作成することができた。	スライドを作成することができた。	スライドを作成することができなかった。																																				
プレゼンテーションの基礎知識	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践した結果、聞き手に対し効果的かつ自分なりに工夫を凝らしたプレゼンすることができた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践した結果、聞き手に対し効果的にプレゼンすることができた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践できた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得できた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得できなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『教養としてのデータサイエンス』</td> <td>内田誠一/川崎能典/孝忠大輔/佐久間淳/椎名洋/中川裕志</td> <td>講談社サイエンスエッセイ</td> <td>2021</td> <td>978-4-06-523809-7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『データサイエンスの基礎』</td> <td>瀧田悦生</td> <td>講談社サイエンスエッセイ</td> <td>2019</td> <td>978-4-06-517000-7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『教養としてのデータサイエンス』	内田誠一/川崎能典/孝忠大輔/佐久間淳/椎名洋/中川裕志	講談社サイエンスエッセイ	2021	978-4-06-523809-7		2	『データサイエンスの基礎』	瀧田悦生	講談社サイエンスエッセイ	2019	978-4-06-517000-7		3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『教養としてのデータサイエンス』	内田誠一/川崎能典/孝忠大輔/佐久間淳/椎名洋/中川裕志	講談社サイエンスエッセイ	2021	978-4-06-523809-7																																					
2	『データサイエンスの基礎』	瀧田悦生	講談社サイエンスエッセイ	2019	978-4-06-517000-7																																					
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (D- (科目ナンバリング: SOF041019/SOF061043))				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)・近澤 潤(経営学科・専任講師)		研究室所在	1号館2階(由水)・1号館2階(近澤)	
単位数	1 (単位認定責任者: 近澤 潤)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 民間企業での実務経験を活かし、実社会に必要なPC操作技術について、実際の事例を交えて解説・教授する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	【オリエンテーション・プレゼンの基礎】シラバス説明、プレゼンの基礎、PowerPoint基本操作	シラバスの確認(45分)	プレゼンの基礎、基本操作の復習(45分)
2	【データ・AI利活用(導入)】データ・AIを学ぶ意義、社会で起きている変化、社会で活用されているデータ	データサイエンスを調べる(45分)	確認テストの復習(45分)
3	【データ・AI利活用(導入)】データ活用事例について調べ、スライドを作成する。	データ活用事例を調べる(45分)	他のデータ活用事例を調べてまとめる(45分)
4	【データ・AI利活用(導入)】身近にあるAI、データ分析とAIの活用領域	AIを調べる(45分)	確認テストを復習する(45分)
5	【データ・AI利活用(導入)】データ・AI利活用のための技術、データの活用とは	AIの技術を調べる(45分)	確認テストを復習する(45分)
6	【データ・AI利活用(導入)】データ・AI利活用の現場・最新動向	AIの動向を調べる(45分)	確認テストを復習する(45分)
7	【データ・AI利活用(導入)】データ・AIの事例について調べ、スライドを作成する。グループワーク	PowerPointの基本操作を復習する(45分)	データ・AIの事例を調べる(45分)
8	【データ・AI利活用(導入)】データ・AIの事例について調べ、スライドを作成・発表する。グループワーク	発表の準備をする(45分)	発表内容を復習する(45分)
9	【Excelの基礎】Excelの基本操作とデータ加工について	Excelの基本操作を調べる(45分)	Excelの基本操作を復習する(45分)
10	【データリテラシー(基礎)】平均値、ばらつき、相関と因果、母集団と抽出 Excelを使用した演習	Excelの基本操作を復習する(45分)	学習したExcel関数を復習する(45分)
11	【データリテラシー(基礎)】グラフ、データの可視化演習 Excelを使用した演習	Excelの基本操作を復習する(45分)	グラフ作成方法を復習する(45分)
12	【データリテラシー(基礎)】分析演習(手法を予め定めた分析) Excelを使用した演習	Excelの基本操作を復習する(45分)	分析方法を復習する(45分)
13	【データリテラシー(基礎)】分析演習(自由分析) Excelを使用した演習、グループワーク	分析方法を復習する(45分)	分析方法を復習する(45分)
14	【データ・AI利活用の留意事項(心得)】データ・AI利活用の利点・欠点を知る。	データ・AIが引き起こすリスクを調べる(45分)	確認テストを復習する(45分)
15	【データ・AI利活用の留意事項(心得)】データ・AIが引き起こす課題について調べ、発表する。グループワーク	データ・AIが引き起こす課題を調べる(45分)	発表内容を復習する(45分)
16	定期試験(60分)・解説(30分)	これまでの確認テストを復習する(45分)	解説内容をまとめる(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (A- (科目ナンバリング: SOF041019/SOF061043))				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)・近澤 潤(経営学科・専任講師)・向井 正伸		研究室所在	1号館2階(由水)・1号館2階(近澤)・2号館7階(向)	
単位数	1 (単位認定責任者: 近澤 潤)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間企業での実務経験を活かし、実社会に必要なPC操作技術について、実際の事例を交えて解説・教授する。		

概要

履修目標
今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活や実社会の場で活用できる基礎的素養を身につける。ドキュメンテーション及びプレゼンテーションの基礎知識を身につけ、自分が意図した通りにデータを加工し、適切なかたちで表現する技能を習得する。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(2)」、「2(5)」に対応する。

到達目標
データ・AI活用領域の広がりや理解し、それらを活用する価値を説明できる。また、その際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解し習得する。コンピュータを使って、データを適切に加工・分析・考察することができ、その結果をプレゼンテーションツール等を用いて、表現することができる。

授業全体の内容と概要
数理・データサイエンス・AIの活用について、講義・演習課題・各種教材を通して、知識だけではなく、実際にデータを加工し、表現できる技術を体系的に学修できる授業内容とする。習熟度を測定するために確認テストを複数回実施する。演習課題は個人形式行う他に、知識・技術の応用・定着を図るため、グループワーク(グループディスカッション)形式の演習を取り入れる。なお、グループ編成は、基礎知識や使用ソフトの操作技術の習熟度を考慮した上で、担当教員より指定する。

授業の方法
各回の授業は、担当教員による講義と、Excel・PowerPointを使った演習を組み合わせで行う。演習は、個人形式またはグループワーク形式で実施し、成果物の提出を求める。本科目開講期間中は、講義で使用した教材をオンライン上に保存・提供するので、復習等に活用してほしい。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模擬授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																	
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																	
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
課題データは、自分で考えまとめたものを提出することとし、第三者が作成した著作物等を転用しないこと。自分で所有するノートPCを持ち込んで受講しても構わないが、必要な設定は予め済ませておくこと。

資格指定科目
教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上とする。30分以上の遅刻は欠席と見なす。5評価(秀)は、原則として全出席者に限る。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	50%	0%	50%	0%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
50%	0%	50%	0%	0%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>数理・データサイエンス・AIの理解</td> <td>データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて自分の考えと併せて説明できた。</td> <td>データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。</td> <td>データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。</td> <td>データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。</td> <td>データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できなかった。</td> </tr> <tr> <td>データ・AI利活用におけるモラル・倫理・リスクの理解</td> <td>データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、自分ごととして考えた上で、事例を基に詳しく説明できた。</td> <td>データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を基に詳しく説明できた。</td> <td>データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を見つけて説明できた。</td> <td>データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できた。</td> <td>データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>コンピュータを使ったデータ加工・分析・表現</td> <td>Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現し、自らの考えを交えて説明できた。</td> <td>Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。</td> <td>Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。</td> <td>Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を表現できた。</td> <td>Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができず、結果を正しく表現できなかった。</td> </tr> <tr> <td>コンピュータを使ったスライド作成・表現</td> <td>図や画像を使い、レイアウトやテキストなどの細かい設定に気を配り、より聞き手にとってわかりやすいスライドを作成することができた。</td> <td>図や画像を使い、聞き手にとってわかりやすいスライドを作成することができた。</td> <td>図や画像を使い、スライドを作成することができた。</td> <td>スライドを作成することができた。</td> <td>スライドを作成することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーションの基礎知識</td> <td>プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践した結果、聞き手に対し効果的かつ自分なりに工夫を凝らしたプレゼンすることができた。</td> <td>プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践した結果、聞き手に対し効果的にプレゼンすることができた。</td> <td>プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践できた。</td> <td>プレゼンテーションの基礎知識を習得できた。</td> <td>プレゼンテーションの基礎知識を習得できなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	数理・データサイエンス・AIの理解	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて自分の考えと併せて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できなかった。	データ・AI利活用におけるモラル・倫理・リスクの理解	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、自分ごととして考えた上で、事例を基に詳しく説明できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を基に詳しく説明できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を見つけて説明できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できなかった。	コンピュータを使ったデータ加工・分析・表現	Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現し、自らの考えを交えて説明できた。	Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができず、結果を正しく表現できなかった。	コンピュータを使ったスライド作成・表現	図や画像を使い、レイアウトやテキストなどの細かい設定に気を配り、より聞き手にとってわかりやすいスライドを作成することができた。	図や画像を使い、聞き手にとってわかりやすいスライドを作成することができた。	図や画像を使い、スライドを作成することができた。	スライドを作成することができた。	スライドを作成することができなかった。	プレゼンテーションの基礎知識	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践した結果、聞き手に対し効果的かつ自分なりに工夫を凝らしたプレゼンすることができた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践した結果、聞き手に対し効果的にプレゼンすることができた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践できた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得できた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得できなかった。
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
数理・データサイエンス・AIの理解	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて自分の考えと併せて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりや理解し、データ・AIを活用する価値を事例を用いて説明できなかった。																																				
データ・AI利活用におけるモラル・倫理・リスクの理解	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、自分ごととして考えた上で、事例を基に詳しく説明できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を基に詳しく説明できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を見つけて説明できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できた。	データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できなかった。																																				
コンピュータを使ったデータ加工・分析・表現	Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現し、自らの考えを交えて説明できた。	Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができず、結果を正しく表現できなかった。																																				
コンピュータを使ったスライド作成・表現	図や画像を使い、レイアウトやテキストなどの細かい設定に気を配り、より聞き手にとってわかりやすいスライドを作成することができた。	図や画像を使い、聞き手にとってわかりやすいスライドを作成することができた。	図や画像を使い、スライドを作成することができた。	スライドを作成することができた。	スライドを作成することができなかった。																																				
プレゼンテーションの基礎知識	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践した結果、聞き手に対し効果的かつ自分なりに工夫を凝らしたプレゼンすることができた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践した結果、聞き手に対し効果的にプレゼンすることができた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得し、実践できた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得できた。	プレゼンテーションの基礎知識を習得できなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『教養としてのデータサイエンス』</td> <td>内田誠一/川崎能典/孝忠大輔/佐久間淳/椎名洋/中川裕志</td> <td>講談社サイエンスイフィク</td> <td>2021</td> <td>978-4-06-523809-7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『データサイエンスの基礎』</td> <td>濱田悦生</td> <td>講談社サイエンスイフィク</td> <td>2019</td> <td>978-4-06-517000-7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『教養としてのデータサイエンス』	内田誠一/川崎能典/孝忠大輔/佐久間淳/椎名洋/中川裕志	講談社サイエンスイフィク	2021	978-4-06-523809-7		2	『データサイエンスの基礎』	濱田悦生	講談社サイエンスイフィク	2019	978-4-06-517000-7		3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『教養としてのデータサイエンス』	内田誠一/川崎能典/孝忠大輔/佐久間淳/椎名洋/中川裕志	講談社サイエンスイフィク	2021	978-4-06-523809-7																																					
2	『データサイエンスの基礎』	濱田悦生	講談社サイエンスイフィク	2019	978-4-06-517000-7																																					
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (A- (科目ナンバリング: SOF041019/SOF061043))				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)・近澤 潤(経営学科・専任講師)・向井 正伸	研究室所在	1号館2階(由水)・1号館2階(近澤)・2号館7階(向)		
単位数	1 (単位認定責任者: 近澤 潤)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間企業での実務経験を活かし、実社会に必要なPC操作技術について、実際の事例を交えて解説・教授する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	【オリエンテーション・プレゼンの基礎】シラバス説明、プレゼンの基礎、PowerPoint基本操作	シラバスの確認(45分)	プレゼンの基礎、基本操作の復習(45分)
2	【データ・AI利活用(導入)】データ・AIを学ぶ意義、社会で起きている変化、社会で活用されているデータ	データサイエンスを調べる(45分)	確認テストの復習(45分)
3	【データ・AI利活用(導入)】データ活用事例について調べ、スライドを作成する。	データ活用事例を調べる(45分)	他のデータ活用事例を調べてまとめる(45分)
4	【データ・AI利活用(導入)】身近にあるAI、データ分析とAIの活用領域	AIを調べる(45分)	確認テストを復習する(45分)
5	【データ・AI利活用(導入)】データ・AI利活用のための技術、データの活用とは	AIの技術を調べる(45分)	確認テストを復習する(45分)
6	【データ・AI利活用(導入)】データ・AI利活用の現場・最新動向	AIの動向を調べる(45分)	確認テストを復習する(45分)
7	【データ・AI利活用(導入)】データ・AIの事例について調べ、スライドを作成する。グループワーク	PowerPointの基本操作を復習する(45分)	データ・AIの事例を調べる(45分)
8	【データ・AI利活用(導入)】データ・AIの事例について調べ、スライドを作成・発表する。グループワーク	発表の準備をする(45分)	発表内容を復習する(45分)
9	【Excelの基礎】Excelの基本操作とデータ加工について	Excelの基本操作を調べる(45分)	Excelの基本操作を復習する(45分)
10	【データリテラシー(基礎)】平均値、ばらつき、相関と因果、母集団と抽出 Excelを使用した演習	Excelの基本操作を復習する(45分)	学習したExcel関数を復習する(45分)
11	【データリテラシー(基礎)】グラフ、データの可視化演習 Excelを使用した演習	Excelの基本操作を復習する(45分)	グラフ作成方法を復習する(45分)
12	【データリテラシー(基礎)】分析演習(手法を予め定めた分析) Excelを使用した演習	Excelの基本操作を復習する(45分)	分析方法を復習する(45分)
13	【データリテラシー(基礎)】分析演習(自由分析) Excelを使用した演習、グループワーク	分析方法を復習する(45分)	分析方法を復習する(45分)
14	【データ・AI利活用の留意事項(心得)】データ・AI利活用の利点・欠点を知る。	データ・AIが引き起こすリスクを調べる(45分)	確認テストを復習する(45分)
15	【データ・AI利活用の留意事項(心得)】データ・AIが引き起こす課題について調べ、発表する。グループワーク	データ・AIが引き起こすリスクを調べる(45分)	発表内容を復習する(45分)
16	定期試験(60分)・解説(30分)	これまでの確認テストを復習する(45分)	解説内容をまとめる(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



星槎道都大学 学生便覧

BROCHURE ON SEISA DOHTO UNIVERSITY

2021年度生用
(令和3年度)

経営学部

Faculty of Management

社会福祉学部

Faculty of Social Welfare

美術学部

Faculty of Fine Arts

共通教育科目一覽

共通教育科目（経営学科・社会福祉学科・デザイン学科・建築学科共通）

科目区分	授業科目	単位	年次	CAP	担当教員	
修学基礎教育科目	修学基礎	スタートアップ演習 ①	1		各教員	
		文章表現演習	1	1	津田	
		基礎ゼミナールⅠA ①	1		各教員	
		基礎ゼミナールⅠB ①	1		各教員	
		基礎ゼミナールⅡA ①	2		各教員	
		基礎ゼミナールⅡB ①	2		各教員	
	キャリア支援	キャリア支援演習Ⅰ ①	1	1		各教員
		キャリア支援演習Ⅱ ①	1	1		各教員
		キャリア支援演習Ⅲ	1	3		各教員
		キャリアデザインⅠ	2	1		後藤・山本
		キャリアデザインⅡ	2	1		各教員
		生涯学習概論Ⅰ	2	2		藤根
		生涯学習概論Ⅱ	2	2		藤根
	人文社会科学	こころの科学	2	1		佐々木智
		人間と哲学	2	2		遠藤
		芸術へのアプローチ	2	3		梅田力
		法学入門	2	1		青山
		日本国憲法	2	3		青山
		社会学入門	2	2		松下
		政治学入門	2	3		金子敏
		環境学入門	2	1		吉田
		経済学入門	2	1		小林
		日本の歴史	2	2		牧之内
		外国の歴史	2	3		横田
	健康とスポーツ	スポーツ総合 ①	1	1	×	各教員
		健康科学 ②	1			各教員
	外国語基礎教育科目	英語	基礎英語Ⅰ ②	1		各教員
基礎英語Ⅱ ②			1		各教員	
英語入門Ⅰ			2	2		石田・横田・宮嶋
英語入門Ⅱ			2	2		石田・横田・宮嶋
外国語コミュニケーション			2	3		岡島
その他言語		ドイツ語入門Ⅰ	2	3		河田
		ドイツ語入門Ⅱ	2	3		河田
		中国語入門Ⅰ	2	2		村山
		中国語入門Ⅱ	2	2		村山
		日本語Ⅰ ※	2	1		高橋真
		日本語Ⅱ ※	2	1		佐藤恵
		日本語Ⅲ ※	2	2		佐藤恵
		日本語Ⅳ ※	2	2		佐藤恵

- ・ 授業科目の※印は外国人留学生対象科目
- ・ 単位の○印は必修科目
- ・ 一部、他学部他学科科目を含む。
- ※1 教科に関する専門的事項の取得科目の単位数分を専門科目の自由科目として単位認定する。
- ※2 学期、状況に応じて、内容が変わることがある。

科目区分	授業科目	単位	年次	CAP	担当教員		
情報・数理基礎教育科目	情報リテラシー	情報基礎演習Ⅰ ①	1		由水・近澤		
		情報基礎演習Ⅱ ①	1		由水・近澤		
		情報倫理	2	2		由水	
		データサイエンス論	2	2		近澤	
	数理基礎	数学入門	2	1		横山	
		統計学入門	2	1		伊藤裕	
		基礎統計演習	2	2		各教員	
		AⅠ入門	2	2		近澤	
	地域共生教育科目	アクティブプログラムⅠ	1	1	×	ゼミ担当	
		アクティブプログラムⅡ	1	2	×	ゼミ担当	
アクティブプログラムⅢ		1	3	×	ゼミ担当		
アクティブプログラムⅣ		1	4	×	ゼミ担当		
プログラム名 単位 年次 CAP 担当教員							
サブメジャー科目	知識・視野拡大講座	ボールパークプログラム ※全学生対象	2	1		信濃・鈴木重 島山・湯浅 安藤・石山	
		地域共生プログラム ※学科別全学生対象	1	1~4		各教員	
		みらい創造プログラム ※全学生対象	1	3~4		河野・信濃 石山・篠原	
		防災・治水プログラム ※全学生対象	1	2		安藤・西澤 伊達・津梅	
		イラスト・マンガプログラム ※デザイン学科を除く全学生対象	1	1		佐藤正・三上	
		インターンシップ・キャリアプログラムⅠ~Ⅳ ※全学生対象	1	1~4		キャリア支援 センター 社会福祉学科 建築学科	
		海外短期留学プログラム ※全学生対象	2	3~4		国際交流センター	
		海外研修プログラム ※有料 ※全学生対象	1	1~4		国際交流センター	
		資格・免許取得講座	グローバル英語プログラム ※全学生対象	4	3~4 ※2		岡島・信濃
			上級日本語プログラム ※留学生対象	4	3~4 ※2		竜野
	幼稚園教員養成プログラム ※有料 ※教職課程履修者対象		※1	1~4		学務課	
	小学校教員養成プログラム ※有料 ※教職課程履修者対象		※1	1~4		学務課	
	受験対策講座	介護職員初任者研修プログラム ※有料 ※全学生対象	4	1~4		生涯学習課	
		公務員試験対策プログラム ※全学生対象	2	3~4 ※2		未定	
教育採用試験対策プログラム ※教職課程履修者対象		4	1~2 ※2		坂上・荒木		
宅地建物取引士試験対策プログラム ※全学生対象		2	1~4		小笠原		

星槎道都大学教授会規程

第 1 章 総 則

(趣旨)

第 1 条 星槎道都大学（以下「本学」という。）学則第7条に基づく教授会の組織及び運営等については、この規程の定めるところによる。

第 2 章 全 学 教 授 会

(組織)

第 2 条 全学教授会は、学長、副学長、学部長、教授及び事務局長をもって組織する。

(開催)

第 3 条 全学教授会は、設置学部の手合教授会として学長が招集し、設置学部の学部長が輪番で議長となる。

2. 全学教授会は、構成員の3分の2以上が出席しなければ開くことができない。

(審議事項)

第 4 条 全学教授会は、次に掲げる事項について審議し、学長に意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業及び課程修了に関する事項

(2) 学生の学位授与に関する事項

(3) 教育課程の編成に関する事項

(4) 教員の教育研究業績の審査に関する事項

(5) 学生の懲戒（退学の場合）に関する事項

2. 全学教授会は、前項に規定するもののほか、学長から諮問された事項について審議する。

3. 全学教授会は、前二項に規定するもののほか、教育研究に関する事項について審議することができる。

4. 学長が必要と判断するときは、本条第1項第1号に規定する入学に関する事項を第7条第4号の入試委員会において審議することができる。

(議事)

第 5 条 全学教授会の議事は、全学教授会の意見を聴き、学長が決定する。

(構成員以外の者の出席)

第 6 条 学長が必要と判断するときは、構成員以外の者を全学教授会に出席させ、意見を求めることができる。

(専門委員会の設置)

第 7 条 全学教授会に学校教育法施行規則第143条に基づく次の専門委員会を置く。

(1) 学務委員会

(2) キャリア支援委員会

(3) 図書紀要及び情報委員会

(4) 入試委員会

(5) FD推進委員会

(事務)

第 8 条 全学教授会の事務は、事務局学務課が担当する。

2. 事務担当は、議事録を作成し、これを保管する。

第 3 章 学 部 教 授 会

(組織)

第 9 条 学部教授会は、学部長並びに当該学部所属の専任教員をもって組織する。

(開催)

第 10 条 学部教授会は、学部長が招集し、議長となる。

2. 学部教授会は、構成員の3分の2以上が出席しなければ開くことができない。

(審議事項)

第 11 条 学部教授会は、次に掲げる事項について審議し、学長に意見を述べるものとする。

(1) 当該学部学生の入学、卒業及び課程修了に関する事項

(2) 当該学部学生の学位授与に関する事項

(3) 当該学部の教育課程の編成に関する事項

(4) 当該学部の教員の教育研究業績の審査

(5) 当該学部学生の懲戒（退学の場合）に関する事項

2. 学部教授会は、前項に規定するもののほか、学部長から諮問された事項について審議する。

3. 学部教授会は、前二項に規定するもののほか、当該学部の教育研究に関する事項について審議することができる。

(議事)

第 12 条 学部教授会の議事は、学部教授会の意見を聴き、学部長が決定する。但し、前条第 1 項の議事については、学長に最終決定を受けなければならない。

(構成員以外の者の出席)

第 13 条 学部長が必要と判断するときは、構成員以外の者を学部教授会に出席させ、意見を求めることができる。

(学科会議)

第 14 条 学部長が必要と判断するときは、特定事項について協議を行う学科会議を招集し、意見を聴くことができる。

2. 学科会議は、学部長及び学科長の指名する者で組織し、学科長が議長となる。

(事務)

第 15 条 学部教授会の事務は、事務局学務課が担当する。

2. 事務担当は、議事録を作成し、これを保管する。

第 4 章 専 門 委 員 会

(組織)

第 16 条 専門委員会は、学長、副学長、学部長、事務局長及び次に掲げる委員で組織する。

(1) 学部教授会構成員の中から学長が指名する者

(2) 図書情報館長（図書紀要及び情報委員会のみ）、事務局次長・事務部長（担当事務の委員会のみ）、アドミッション・オフィサー（入試委員会のみ）

2. 専門委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の中から学長が委嘱する。

3. 専門委員会委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(開催)

第 17 条 専門委員会は、各委員長が招集し、議長となる。但し、委員長が欠席するときは、委員長の指名する副委員長がこれを代行することができる。

2. 専門委員会は、構成員の3分の2以上が出席しなければ開くことができない。

(審議事項)

第18条 専門委員会は、次に掲げる事項を審議する。

(1) 学務委員会

- ①授業、試験及び単位認定に関する事項
- ②学内諸規程に関する事項
- ③学内行事に関する事項
- ④学生の懲戒、退学、休学、復学、留学、転学及び除籍に関する事項
- ⑤学生の厚生補導、健康管理及び奨学金に関する事項
- ⑥科目等履修生、研究生及び委託生に関する事項
- ⑦公開講座等社会貢献に関する事項
- ⑧高大連携等他校との連携に関する事項
- ⑨その他学長が必要と認める学務に関する事項

(2) キャリア支援委員会

- ①学生の進路に関する事項
- ②学生のキャリア教育に関する事項
- ③学生のインターンシップに関する事項
- ④その他学長が必要と認めるキャリア支援に関する事項

(3) 図書紀要及び情報委員会

- ①図書情報館の運営及び利用に関する事項
- ②図書情報館の資料購入に関する事項
- ③星槎道都大学研究紀要に関する事項
- ④情報基盤及び情報政策の長期戦略・将来構想に関する事項
- ⑤情報ネットワーク・電子メールの管理・運用・倫理に関する事項
- ⑥情報システムのセキュリティ確保に関する事項
- ⑦その他学長が必要と認める図書紀要及び情報に関する事項

(4) 入試委員会

- ①入学試験に関する事項
- ②入試広報に関する事項
- ③第4条第4項に規定する事項
- ④その他学長が必要と認める入試に関する事項

(5) FD推進委員会

- ①授業評価、授業改善の取組に関する事項
- ②シラバス、成績評価方法の改善の取組に関する事項
- ③学生指導のあり方の改善の取組に関する事項
- ④その他学長が必要と認めるFDに関する事項

(議事)

第19条 専門委員会の議事は、各専門委員会の意見を聴き、学長が決定する。但し、学長が欠席するときは、各委員長または副委員長が審議終了後直ちに学長へ議事を上申し、決定を受けなければならない。

2. 専門委員会の審議状況を踏まえ、学長が必要と判断する事項は、第4条第2項に基づき全学教授会において審議する。

(構成員以外の者の出席)

第20条 委員長が必要と判断するときは、構成員以外の者を各専門委員会に出席させ、意見を求めることができる。

(小委員会)

第21条 委員長が必要と判断するときは、各専門委員会に特定事項を協議または実行する小委員会等を設置することができる。

(事務)

第22条 各専門委員会の事務担当は、次のとおりとする。

- | | |
|-----------------|------------|
| (1) 学務委員会 | 学務課 |
| (2) キャリア支援委員会 | キャリア支援センター |
| (3) 図書紀要及び情報委員会 | 図書情報センター |
| (4) 入試委員会 | 入試広報課 |
| (5) FD推進委員会 | 学務課 |

2. 委員会に主幹及び副主幹を置き、事務担当の課長相当職等をもって学長が委嘱する。
3. 事務担当は、会議記録を作成し、これを保管する。

附 則 本規程は昭和57年4月1日より施行する。

2. 本規程の改訂は、昭和58年12月13日より施行する。
3. 本規程の改訂は、昭和61年5月12日より施行する。
4. 本規程の改訂は、平成8年4月1日より施行する。
5. 本規程の改訂は、平成9年7月1日より施行する。
6. 本規程の改訂は、平成13年4月1日より施行する。
7. 本規程の改訂は、平成17年4月1日より施行する。
8. 本規程の改訂は、平成18年4月1日より施行する。
9. 本規程の改訂は、平成19年4月1日より施行する。
10. 本規程の改訂は、平成20年4月1日より施行する。
11. 本規程の改訂は、平成24年4月1日より施行する。
12. 本規程の改訂は、平成25年4月1日より施行する。
13. 本規程の改訂は、平成26年4月1日より施行する。
14. 本規程の改訂は、平成27年4月1日より施行する。なお、本規程の改訂に当たり従前の各専門委員会の運営の細則及び情報委員会規程は、平成27年3月31日をもって廃止する。
15. 本規程の改訂は、平成29年4月1日より施行する。
16. 本規程の改訂は、平成30年4月1日より施行する。
17. 本規程の改訂は、平成31年4月1日より施行する。
18. 本規程の改訂は、令和2年4月1日より施行する。
19. 本規程の改訂は、令和3年4月1日より施行する。

自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）の設置規則等

＝根拠資料（2022年4月26日開催 令和4年度 第1回学務委員会 議事録【抜粋】）＝

【議事録（抜粋）】

1. 開催日時 令和4年4月26日（火） 午後4時15分より
1. 開催場所 星槎道都大学 2号館 7階 第二会議室
1. 構成員 15名
1. 出席者 11名 学務委員長（建築学科長）、副委員長（社会福祉学科委員、経営学科委員）、学長、副学長（社会福祉学部長）、経営学部長、美術学部長、社会福祉学科長、デザイン学科長、事務局長、事務局次長
1. 議案補足説明者 図書情報センター副センター長
1. 欠席者 4名 経営学科長、社会福祉学科委員、社会福祉学科委員、デザイン学科委員
1. 同席者 3名 学務課長、生涯学習課長、学務課長補佐
1. 議事の経過及びその結果

（会議成立の報告）

主幹より、本日の学務委員会については、構成員15名中11名の出席があり、教授会規程第17条第2項を充足し学務委員会成立との報告がなされた。

（議長選出）

教授会規程第17条第1項の規程により、委員長が議長となり審議に入る。

（議案審議）

<第4号議案> 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度について

議長が、本議案について図書情報センター副センター長に説明を求める。図書情報センター副センター長より、別紙資料4により本学の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の概要について、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベルプラス）」への申請について、プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）を学務委員会、プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）を学務委員会小委員会としてデータサイエンス教育担当者会議を設置することについて、本制度の自己点検・評価報告書の作成並びに学外公開について詳細な説明がなされ審議願う旨提案がなされた。

このことについて、議長審議を求めたところ、全員異議無く承認し学長が決定した。

以上

数理・データサイエンス・AIリテラシー教育の取り組み概要

小規模文系大学の特色を踏まえたデータサイエンスの素養育成と地域に根付いたデータサイエンスの利活用の実践

いまの自分の、その先へ。

建学の精神

社会に必要とされることを創造し、常に新たな道を切り拓き、それを成し遂げる。

各学科ディプロマ・ポリシー

卒業認定・学位授与の方針

本教育の目的

Society 5.0をはじめとした情報技術の急速な発展(社会の変化)に対応するため、経営・社会福祉・デザイン・建築の各専門分野における専門知識・技能を持ち、それらを人々と協働してICT・データサイエンス・AI・IoTなどの情報技術の知見で考え、利活用して表現することで、さらなる課題解決や社会貢献ができる人材を育成する。

本教育のポイント

各分野との「つながり」を重視

数理・データサイエンス・AI教育プログラム対応科目「情報基礎演習II」では、学科別にクラスを編成し、授業内では各学科の専門分野に関する事例やテーマを積極的に取り扱うことで、専門分野とのつながりを持たせ、学習意欲の向上を図る。また、データの分析では、**専門分野での実データ**を使い演習を行う。

協働して学び合う姿勢の促進

授業では、**グループワーク・ディスカッション・PBL***を取り入れ、学生間での知識・技能の共有や定着化を図り、互いの価値観を認め合い協働する姿勢を養成する。また、グループ活動の成果について、プレゼン資料を作成し、思考・考察・意見交換、発表する機会を設け、表現力・発信力の修得を目指す。
*PBLは、令和4年度後期開講の「データサイエンス論」にて実施。

データサイエンス教育の履修必修化

文理問わずあらゆる分野において、数理・データサイエンス・AIの基礎的素養を身につけることが急務であることから、リテラシーモデルカリキュラム「導入」「基礎」「心得」の内容を全て**全学必修科目**として設定。また、1年次に開講することで2年次以上での専門知識・技能に結びつけ、より深い学びを目指す。

地域の課題解決を行う実践学習

修得した数理・データサイエンス・AIの基礎知識・技能を、**実際に地域の課題を解決するために利活用**することで、実社会の即戦力となる総合的な実践力を養う。

継続的にステップアップする学習

単一科目に留まらず、在学期間中は段階・広範的に数理・データサイエンス・AIを学べる体系とし、**学習ニーズに対応**。卒業後も、情報技術の発展に対応するために継続的に学習する意識・モチベーションを在学中に醸成する。

多様な教材の組み合わせ

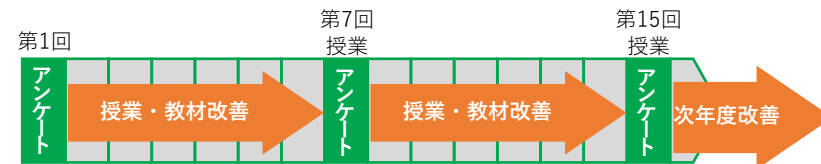
教材開発(スライド・課題等)、他大学公開の**e-learning教材**、**動画資料**を組み合わせ、多方面から学生の理解を深めることを図る。

グループウェアによる学習支援

教材配布、**課題の採点**・個別フィードバック、**チャットによる質問受付**をグループウェア「Microsoft Teams」を活用して実施し、学習支援を幅広く展開。

タイムリーな授業改善

- 開講期間中の学生からのニーズに応えるべく、**学習前(第1回)・中間(第8回)・学習後(第15回)**の3回にわたり、科目独自の「授業アンケート」を実施。
- アンケートの内容を基に、学生の習熟度やニーズを細やかに把握することで、開講期間中における授業・教材の改善に活用。



グループワークで「学び合う」学生たち



関連科目マップ データサイエンス基礎から実践、そして専門分野へのステップアップ

(凡例) リテラシーモデルカリキュラム対応科目 データサイエンス関連科目

1年次(前期)	1年次(後期)	2年次	3年次	4年次	卒業後
情報基礎演習I (必修・1単位) 情報リテラシー基礎の習得 Word・Excel基礎の習得	情報基礎演習II (必修・1単位) 数理・データサイエンス・AIに関する基礎知識の習得 リテラシーモデルカリキュラム: 導入・基礎・心得	データサイエンス論 (選択・2単位) データ基礎知識を応用した地域課題解決型学習(PBL) <small>※令和4年度開講</small>	各学科専門科目 (基幹科目・展開科目・専門演習) 経営・社会福祉・デザイン・建築の各分野における専門知識・技能の習得		経営・社会福祉 デザイン・建築業界で 即戦力となる 専門知識・技能を習得し 課題解決のために 数理・データ・AIを 利活用できる 人材として活躍
数学入門 (選択・2単位) 数理基礎の習得	統計学入門 (選択・2単位) 統計・データ分析の基礎知識の習得	基礎統計演習 (選択・2単位) 統計・データ分析の基礎知識を活用した演習	キャリア支援演習III (選択・1単位) 自身の専門分野の企業活動就労イメージの具体化	卒業論文・卒業研究 論理的思考・文章表現を養い 学習の総まとめを行う	

リテラシーモデルカリキュラムモデル対応科目を「全学必修」

- 文理問わずあらゆる分野において、データを活用して課題解決ができる人材の育成が求められていることから、本学ではリテラシーレベルの対応科目「情報基礎演習II」を「全学必修」とした。
- 令和3年度開講時の「情報基礎演習II」の単位修得率は**94.8%**であった。

科目名	履修者数	修得者数	修得率
情報基礎演習II	270	256	94.8

学修成績	S(秀)	A(優)	B(良)	C(可)	F(不可)
人数	47	63	89	57	14
構成比	17.4%	23.3%	33.0%	21.1%	5.2%

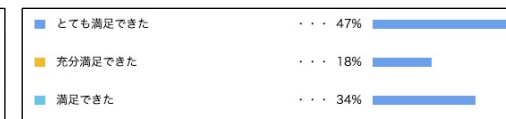
FD推進委員会による授業改善アンケート

- 本学全科目において実施される授業改善アンケートの結果においても、高い満足度を実現。

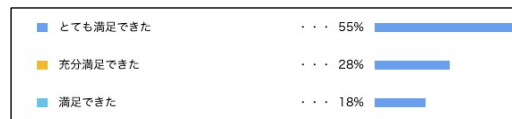
【経営学科】



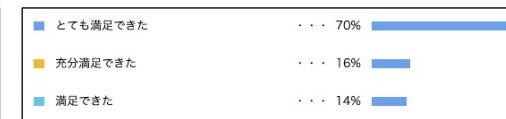
【社会福祉学科】



【デザイン学科】

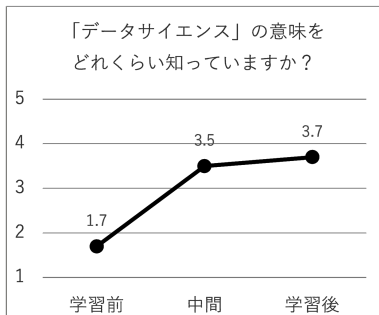


【建築学科】

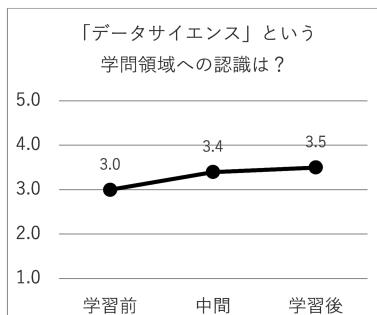


科目独自の授業アンケートによる細やかな授業改善

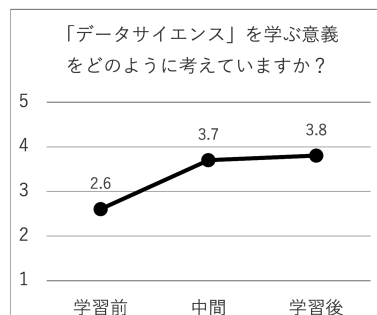
- 科目独自のアンケートを、学習前（第1回授業時）・中間（第8回授業）・学習後（第15回授業）に実施し、**授業のわかりやすさ・楽しさ・将来への活用展望**について調査・把握し、**タイムリーに授業改善**を図った。
- 学生の習熟度の把握や教材の改善、**グループワークによる学び合いの実践**により、学習前から比較して概ね向上したと考えられる。



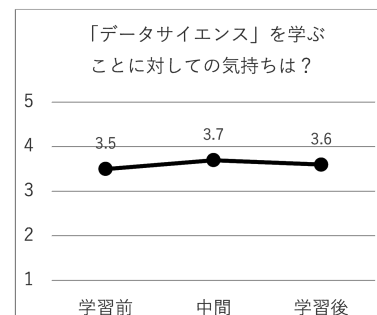
5: よく知っている
4: 少し知っている
3: どちらともいえない
2: ほとんど知らない
1: 全く知らない



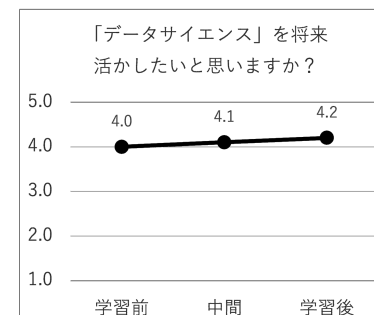
5: 興味・関心がとてもある
4: 興味・関心がある
3: どちらともいえない
2: 興味・関心がない
1: 興味・関心が全くない



5: 意義を理解している
4: 意義を少し理解している
3: どちらともいえない
2: 意義をあまり理解していない
1: 意義を全く理解していない



5: 非常に楽しみ(楽しかった)
4: 少し楽しみ(楽しかった)
3: どちらともいえない
2: あまり楽しみではない(楽しくなかった)
1: 全く楽しみではない(楽しくなかった)



5: 十分に活用することができると思う
4: 少し活用することができると思う
3: どちらともいえない
2: あまり活用できないと思う
1: 全く活用できないと思う

【受講した学生のコメント】

最初は、データサイエンスというものをあまり知らなかったけど**学ぶにつれて関心を持つことができた。**

(経営学科)

今回データサイエンスを学び、はじめは知らなかったが、日本の技術や生活の中で活用されている面が多いことを知り、**とても興味を持てるものだった。**そのため**今後も自主的に調べ知識を深めていきたいと思う。**

(社会福祉学科)

グループワークは、データサイエンスについて知ることができたのはもちろん、**普段話さないような人とも会話を交わすことができたので新鮮**でした。こういう機会があれば、また**コンピューター関係の授業を受けたいです。**

(デザイン学科)

データサイエンスは商業系のイメージが強かったので**自分たちが学んでいる分野にも活用されていると知ることができて良かった。**

(建築学科)

補足資料2 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの体制

経営・社会福祉・デザイン・建築分野に通ずる、データを活用した人材を確実に育成するための全学的な体制

いまの自分の、その先へ。

データサイエンス教育専門の組織を新設

- 本教育の改善・自己点検・評価をきめ細やかに行うため、本教育実施にあたり学務委員会内に「データサイエンス教育担当者会議」を新たに設置。
- 数理・データサイエンス・AI教育プログラムを全学に浸透・推進するため、学長を運営責任者に置き、専門委員会である「学務委員会」、自己点検・評価を行う「データサイエンス教育担当者会議」を組織し、科目担当教員との連携を密に、点検・評価を実施。
- 「データサイエンス教育担当者会議」には、リテラシーモデルカリキュラムに対応する「情報基礎演習II」の科目担当教員を含めて構成されている。

地域社会の課題解決プロジェクト

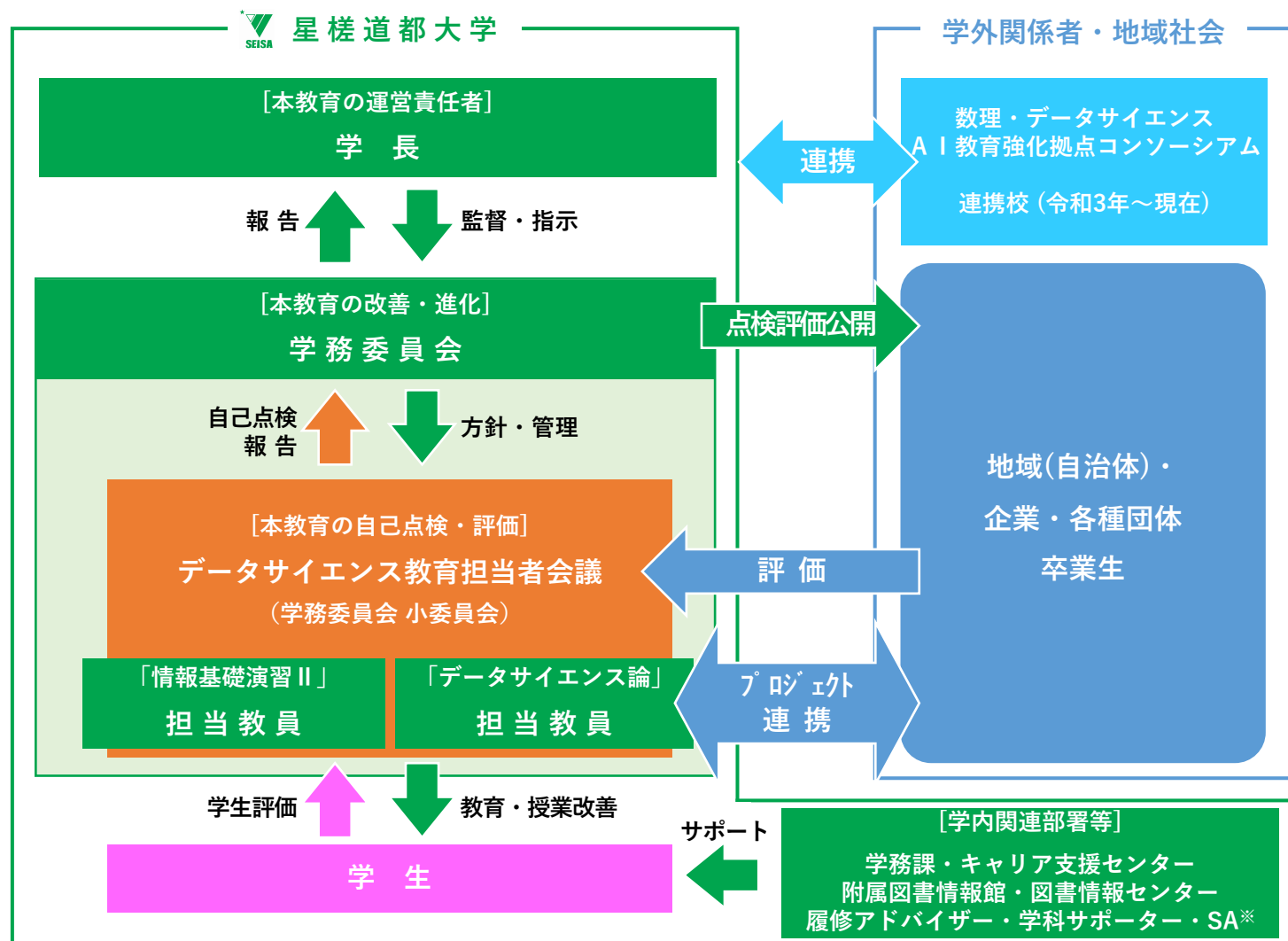
- 「データサイエンス論」（選択科目・2年次開講）では、地域社会と連携し課題解決型学習（PBL）を行う。
※「データサイエンス論」は、令和4年度後期開講予定。

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムでの活動及び連携

- 令和3年より連携校として参画し、総会・ワークショップ等において本教育改善のための情報収集を継続的に実施。
- コンソーシアムで配布されている他大学の教材を参考に、自作教材の修正・改善を実施。

全学での学修サポート

- 学内関連部署や各学科教員で構成される履修アドバイザー・学科サポーターなどにより、小規模大学ならではの細やかな学修サポートを行っている。



※該当科目のSAは、令和5年度より配置予定

組織名称	組織概要
学務委員会	建築学科長 伊藤 裕康 学務委員長（構成員数：15名）
データサイエンス教育担当者会議 （学務委員会 小委員会）	図書情報館長・学長補佐（IT・情報化担当） 由水 伸 議長（構成員数：4名）